



プレスリリース

Press Release

Date : 2015. 7.24

表題：ボツリヌス毒素局所注入療法は、全身性強皮症に伴うレイノー現象に対して良好な治療効果を示した

—強皮症に伴うレイノー現象の新たな治療法に向けて—

趣旨

レイノー現象とは、寒冷刺激や精神的ストレスによって手指の血流障害が起こり、手指の色調が白、紫、赤と変色する現象です。多くの全身性強皮症患者で初発症状として出現し、長時間にわたって疼痛、痺れを来すために患者の日常生活に著しい影響を及ぼし QOL の低下をもたらします。これまでに確立された治療法はなく新たな治療法が切望されています。今回、私たちの研究グループは、レイノー現象をもつ全身性強皮症患者に対する A 型ボツリヌス毒素局所注入療法の安全性・有効性について検討を行いました。その結果、A 型ボツリヌス毒素局所注入療法によって、レイノー症状の重症度と痛みの改善がみられ、副作用もみられませんでした。本研究結果によって、A 型ボツリヌス毒素局所注入療法のレイノー現象に対する高い有効性・安全性が示され、今後、新たな治療法となる可能性が期待されます。本研究は、厚生労働省 臨床研究品質確保体制整備事業（旧臨床研究中核病院整備事業）における成果であり、国際雑誌 *Journal of Dermatology* に 7 月 15 日にオンライン掲載されました。

概要

群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学の石川 治教授、茂木精一郎講師、山田和哉助教、土岐清香助教と群馬大学医学部附属病院臨床試験部の中村哲也教授のグループは、全身性強皮症に伴うレイノー現象に対する新たな治療法の効果を臨床研究として検討しました。

レイノー現象とは、寒冷刺激や精神的ストレスによって手指の血流障害が起こり、手指の色調が白、紫、赤と変色する現象です。多くの全身性強皮症患者で初発症状として出現し、長時間にわたって疼痛、痺れを来すために患者の日常生活に著しい影響を及ぼし QOL の低下をもたらします。これまでにレイノー現象に対して有効な治療法は確立されていませんが、近年、欧米から A 型ボ

ツリヌス毒素の局所注入によって症状が改善したという報告がみられています。A型ボツリヌス毒素は、神経伝達物質を阻害する機能を持ち、眼瞼攣縮、片側顔面痙攣、痙性斜頸、四肢痙縮、下肢痙縮による尖足、腋窩多汗症などへの使用が保険で認められている薬剤です。私たちの研究グループは、欧米での報告を参考にして、レイノー現象をもつ10人の全身性強皮症患者に対してA型ボツリヌス毒素を手指基部に注入し、その効果と安全性について調べました。レイノースコアによるレイノー症状の重症度（頻度、色調、持続時間など）と痛み（VAS）は、投与前と比較して投与4週間後では有意に低下し、その効果は1回の注入で16週間持続して観察されました。冷水負荷直後から20分後の皮膚温度の回復度は、投与前と比べて、4週間後では有意に上昇していました。指尖部潰瘍（5例）は12週間後までに全て治癒しました。全ての症例で筋力低下や疼痛などの副作用はみられませんでした。これらの結果より、本邦においてもレイノー現象に対するボツリヌス毒素の高い有効性・安全性を示すことが出来ました。

社会的意義とこれからの展望

今回の研究による成果によって、将来、A型ボツリヌス毒素局所注入療法が強皮症に伴うレイノー現象に対する新たな治療法として臨床応用される可能性が期待されます。今後は、適応拡大に向けてさらに詳細な臨床研究・治験を行いたいと考えています。

本件に関しますお問い合わせ先：

国立大学法人群馬大学大学院医学系研究科

皮膚科学 講師 茂木 精一郎（もてぎ せいいちろう）

取材対応窓口：

国立大学法人群馬大学昭和地区事務部総務課

広報係長 池守 善洋（いけもり よしひろ）

電話：027-220-7895

FAX：027-220-7720

E-mail: m-koho@jimugunma-u.ac.jp